

令和 6 年舞鶴市議会 9 月定例会

一般質問資料

[尾関 善之 議員]

1. 開催概要

日時：令和6年8月6日（火）19:30～21:30
場所：舞鶴市役所 大会議室

【参加メンバー：8名】※事務局：舞鶴市地域医療課

舞鶴医師会 会長	隅山 充樹	舞鶴医療センター 院長	法里 高
舞鶴共済病院 病院長	沖原 宏治	舞鶴赤十字病院 院長	片山 義敬
舞鶴市民病院 病院長	重見 研司	京都府立医科大学 医療センター所長 兼北部キャンパス長	加藤 則人
舞鶴市長	鴨田 秋津	舞鶴市地域医療政策アドバイザー	井上 重洋

【第2回会議の概要】

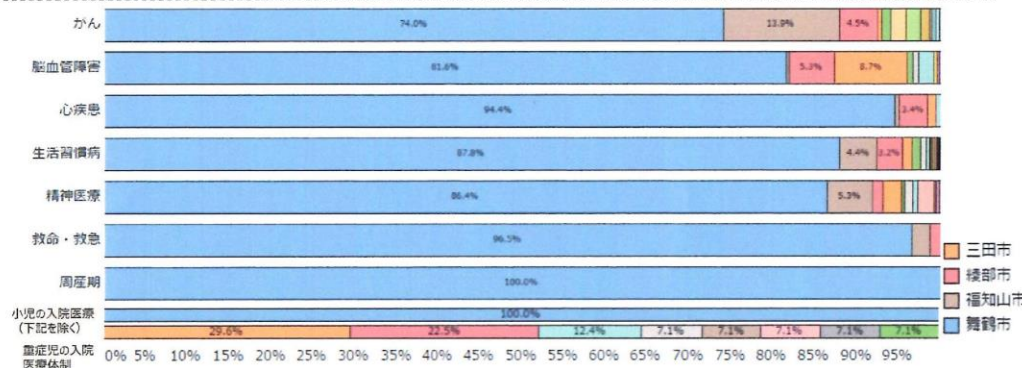
各病院から受領したデータや医師会アンケートをもとに、舞鶴市の医療提供体制に関する現状と課題を確認した。分析からは、5疾病分野等における医療は一定市内で完結しているものの、公的病院の病床稼働率は低い水準を示し、いずれの病院も経常損失が生じ、厳しい収支状況にあることを確認した。

また、多発性外傷や副傷病、合併症へのワンストップ対応など、医師や診療科が偏在することに伴う課題への対応や、入院医療の将来需要が縮小する見通しの中で、本市における今後の医療提供体制のあるべき姿に関して議論した結果、今後は機能や施設の再編・統合を見据えた議論を進めていくこととした。

2. データ分析結果の概要

1. 主な政策医療に関する市内完結について（2022年実績）

- 5疾病・救急・周産期・小児について、舞鶴市内でほとんど完結できているが、一部が市外へ流出している。
- 悪性腫瘍患者（がん）全体の市内完結率は7割超で一部が福知山市に流出している。このうち、がんリハビリテーションだけで見れば、約7割が福知山市に流出。
- 医師会アンケートから推察すると、悪性腫瘍のうち、肺がんの患者は舞鶴市内では対応できていない様子。
- 脳血管障害全体の市内完結率は8割超。このうち、脳卒中に対するリハビリテーションに関しては、三田市に約2割、綾部市に約1割の患者が流出。



※医療計画データブックより作成

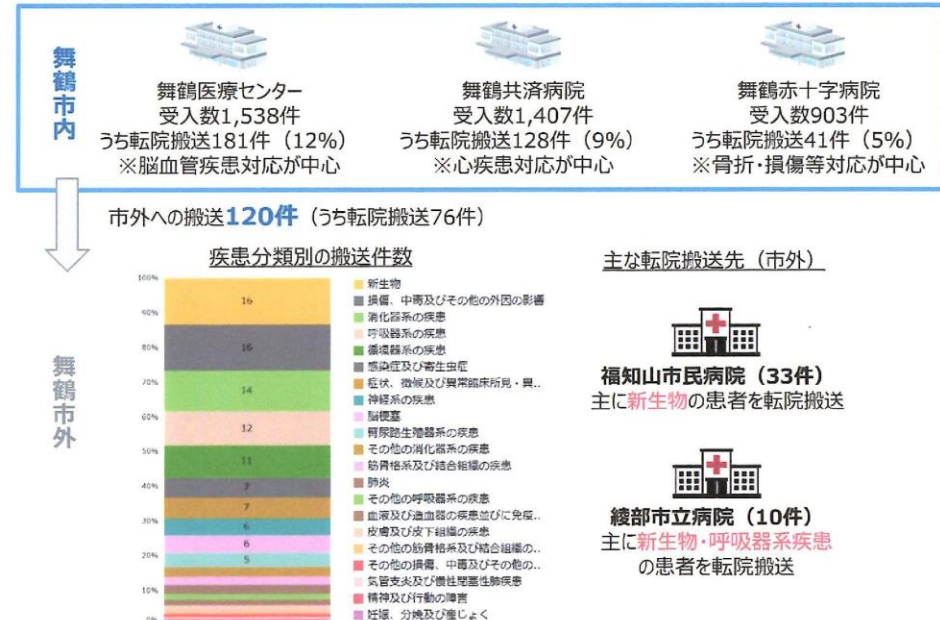
2. 救急医療について

- 舞鶴市にて発生する救急搬送は3,986件（2023年）あり、2021年（3,385件）から601件増加。
- 2023年に舞鶴市で生じた救急搬送3,986件のうち、3,866件（97%）は市内の医療機関で対応。
- 急性期3病棟の救急搬送受け入れのうち、市内医療機関からの転院搬送が一定数認められる（入院治療中に生じた傷病に対応するための転院など）
- 市外搬送120件のうち、転院搬送が76件あり、主な搬送先は福知山市市民病院が33件（主に新生物）、綾部市立病院10件（主に新生物、呼吸器系疾患）、北部医療センター10件、京都府立医大が7件。
- 救急搬送実績として、受信から病院収容までの時間は約36～37分（2022年の全国平均は47.2分）
- 病床機能報告では、2017年以降の休日・夜間患者数が減少しており、その背景について調査が必要

■舞鶴市の救急搬送状況 ※舞鶴市消防救急搬送ローデータより集計

	2021年	2022年	2023年
救急搬送数	3,385件	3,791件	3,986件
市内搬送	3,302件	3,653件	3,866件
（うち転院搬送）	(328件)	(366件)	(350件)
市外への搬送	83件	138件	120件
（うち転院搬送）	(59件)	(94件)	(76件)
搬送所要時間（受信～収容）	35.6分	37.5分	36.5分

■舞鶴市内外の搬送状況(2023年) ※舞鶴市消防救急搬送ローデータより集計



■休日・夜間における救急外来 ※病床機能報告結果から

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
休日・夜間時間外の患者延数	12,535人	11,964人	10,572人	8,114人	8,220人

第2回舞鶴市医療機能最適化検討会議（概要版）

2

3. 公的4病院の医師数（常勤医）について ※各病院データから（非常勤医師は除く）

- 心臓血管外科・循環器内科、脳神経外科・脳神経内科、小児科、精神科は各病院に集約され医師数は充実。外科、内科、消化器内科、麻酔科など、他の診療科との連携が多い診療科の医師数が少なく、さらに複数病院に分散している。また、産婦人科医も分散している。
- 脳神経外科と整形外科が揃っている医療機関が無く、頭と骨を同時に損傷する交通事故等に対応できる医療機関が無い。
- 市内で唯一回復期リハビリテーション病棟を持つ舞鶴赤十字病院に脳神経系の常勤医がいない。
- 60歳以上の医師は整形外科2名、内科1名、産婦人科1名となり、当直等への負担が懸念される。

診療科	舞鶴医療センター	舞鶴共済病院	舞鶴赤十字病院	舞鶴市民病院	4病院合計
内科		1.0	3.0	1.0	5.0
外科	2.0	3.0	2.0		7.0
消化器内科	2.0		1.0		3.0
循環器内科	2.0	6.0	1.0		9.0
心臓血管外科		4.0			4.0
脳神経内科	4.0				4.0
脳神経外科	6.0				6.0
小児科	7.0				7.0
(内科)・リハビリテーション科			1.0		1.0
整形外科		2.0	5.0		7.0
耳鼻咽喉科	2.0				2.0
皮膚科	1.0				1.0
眼科	1.0		2.0		3.0
泌尿器科	1.0	4.0			5.0
産婦人科	2.0	3.0			5.0
麻酔科	3.0		1.0	1.0	5.0
精神科／精神神経科	10.0				10.0
歯科口腔外科		3.0			3.0
総計	43.0	26.0	16.0	2.0	87.0

■ 少数の医師がさらに分散している診療科
各病院に集約されている診療科

5. 患者推計について

- 4病院の患者データを用いた需要推計では、医療法上の一般病棟・療養病棟への入院需要は2030年がピークとなる見込み。
- 急性期系病棟への入院需要の減少速度は速く、2030年から2045年にかけて約10%になる約30人／日患者が減少する見込み。
- 回復期・慢性期においては、2030年から2045年にかけて約6%になる約12人／日患者が減少する見込み。
- 精神病棟への入院需要は既に縮小が始まっている可能性がある。

■ 機能別の入院患者推計 ※各病院DPCデータ及び日本の地域別将来推計人口（令和5年度推計）（社人研）より作成



6. 病診連携について（医師会アンケートから）

- 開業医へのアンケートによると病院との連携はできているが、診療科（常勤医）の偏在により、複数の傷病を持つ患者紹介に困りごとを感じる診療所が多数。
- 近年、救急搬送に要する時間は変化を感じないという意見が最多。ただし、搬送先選定は必ずしも円滑ではないことを示唆する回答があった。
- 病院への患者紹介時において、困りごとを感じるという回答が全体の65%となる。診療科（常勤医）の偏在や紹介時の病院の対応が理由として挙げられた。
- 規模縮小や閉院を検討している診療所があり、外来や在宅医療を支える医療体制の維持についての検討が必要。

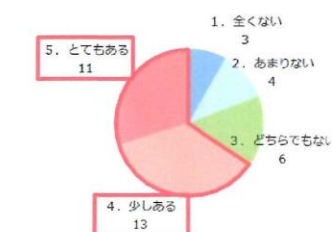
4. 2023年度における4病院の経営状況について ※各病院データから、市民病院は決算認定前（金額単位：百万円）

- 4病院ともに2023年度は医業損失ならびに経常損失が生じている。
- 舞鶴医療センターと舞鶴共済病院は、経常利益に減価償却費を足し戻した簡易C F（キャッシュフロー）においても赤字が生じており、病床稼働率が低い影響もあって、マイナスになっている。

	舞鶴医療センター	舞鶴共済病院	舞鶴赤十字病院	舞鶴市民病院
病床数（許可病床数）	399床	300床	198床	100床
病床稼働率	50%	61%	60%	88%
医業収益	4,825	6,399	3,125	656
入院収益	3,472	4,528	2,164	642
外来収益	1,252	1,752	752	7
医業費用	5,814	7,202	3,517	878
減価償却費	427	577	343	72
医業利益	-989	-803	-393	-221
医業外収益	658	148	372	214
補助金等（コロナ補助金など）	461	124	154	181
医業外費用	209	95	174	34
経常利益	-540	-750	-195	-41
特別収益	2	81	2	2
特別費用	4	95	1	0
純利益	-542	-764	-193	-40
簡易CF（経常利益＋減価償却費）	-94	-173	148	31
簡易CF（経常利益＋減価償却費）－コロナ補助金	-360	-246	21	31

主な質問

かかりつけ患者を病院に紹介するときに
お困りのことはありますか



中長期的（5年～10年）な予定は
ありますか（複数回答可）

